

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部・学際科学科・3 年

参加プログラム: Building the TOMODACHI Generation (BTG) プログラム 派遣先: ワシントン D.C.

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) ✓ 6.起業 7.その他( )

プログラムの概要

- ・日本及びアメリカにおける市民社会やNPOについての講義やパネルディスカッション、施設見学等
- ・アメリカの学生との東北復興プロジェクト構築と発表

参加した動機

- ・日本及びアメリカにおけるNPOについての理解を深めたかったため
- ・東北復興についてより考えたいと思ったため

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

- ・ 特になし

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

- ・ ビザは不要
- ・ ただし、ESTAは自分で申請しなくてはならない

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

- ・ 特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

- ・ 大学の保険に加入しなくてはならない

⑤参加にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(授業履修・単位・試験・論文提出等に関して)

- ・ 春休み中だったため、特になし

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

- ・ 英語を多少なりとも勉強した方が良い(最低でも会話が多少なりともできる程度には)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

- ・ 厚いコート及びジャケット(非常に寒い)
- ・ ホッカイロ

学習・研究について

①プログラムのスタイル、印象に残っている内容等

- ・ アメリカ・日本におけるNPOの違い(法律、資金集めの方法、社会的地位等)についての読み物・レクチャーが興味深かった
- ・ チームワークを深めるために行った Rope activities も非常に面白かった

②学習・研究面でのアドバイス

- ・ TWCから出される読み物を前もって読んでおくこと

③語学面での苦勞・アドバイス等

- ・ 特になし

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

- ・ 主催者側が手配したホテルに宿泊

②生活環境(気候、滞在先の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

- ・ 雪がたまに降ったが、特に問題なし
- ・ 地下鉄が徒歩10分圏内にある

③危機管理関係(渡航先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

- ・ 特になし

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

- ・ 航空費、授業料、食費、宿泊費は全て主催者側が手配してくれた

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

- ・ 特になし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

- ・ ディナーの後の自由時間中に観光を少しした(NBA観戦、ペンタゴンでのショッピング等)

プログラムの環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

- ・ TWCのスタッフが全面的にサポートしてくれる

②滞在先の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

- ・ ジム、PCルーム、洗濯室(有料)がある

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他の所感

このプログラムを通じて、日本・アメリカにおけるNPOや市民社会についての知見を深めることが出来た。また、アメリカのNPOや世界銀行などの国際機関で働いている方々とお会いすることができたので、ネットワークを広げることも出来た。非常に有意義な2週間を過ごすことが出来たと感じている。

② 参加後の予定

大学院

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

NPOについて理解を深めたい方、アメリカに興味がある方、また、東北復興について考えたい方は是非応募することをお勧めする。

④ その他

①準備段階や参加中に役に立ったウェブサイト・出版物

- ・ 特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策 1年

参加プログラム: Building the TOMODACHI Generation 派遣先大学:

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 ⑦.その他

派遣先大学の概要

- ・アメリカの市民社会についてのレクチャー、施設訪問
- ・アメリカ人学生を交えた少人数グループによる、東北復興のためのプラン制作と発表。  
(上位2チームは今夏に東北を訪問することができる。)

参加した動機

- ・官民連携の取り組みに強いアメリカの市民社会について学びたかった。
- ・国際的なチームで東北復興を考えるグループワークに興味があった。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)  
先生に推薦文(短いものですが)を書いていただく必要があるので、早めに準備を開始したほうが良い。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)  
ESTAの取得のみ。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)  
特になし。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)  
学校側から指定された海外旅行保険に加入した。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)  
特になし
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)  
特にないが、英語のグループワークがあるので、ある程度、英語が得意な人の方が楽しめると思う。
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど  
特になし

学習・研究について

- ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)  
9時—5時でレクチャーや施設訪問の予定が組まれている。また、チームビルディングのためのロープコース(ジャングルジムの大人版のようなもの)への参加もあった。
- ② 学習・研究面でのアドバイス  
渡航前にリーディング課題、渡航中はその日の学びを振り返るクエスチョンが配布され、回答を提出することになっていた。
- ③ 語学面での苦勞・アドバイス等  
特になし

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)  
航空券、ホテルはすべてワシントン・センターが手配しているので、何も準備はならず、お金もかからなかった。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)  
地下鉄で利用できるチャージ済みのパスモのようなカードが配布され、食事のほとんども手配されていたので、お金を使うことなく有意義な生活ができた。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)  
特別治安が悪いわけではないが、夜道の一人歩きは避けたほうが良い程度。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)  
プログラム中のほぼ全てをワシントン・センターが手配済みだったので、お金はほとんど使わなかった。(お土産や自分が希望した買い物、コインランドリー利用時のみ)

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
特になし

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
自由時間はあまりなかった。夕方以降は自由だったが、観光地等はほとんど閉まってしまう。

#### 派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)  
特になし

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)  
特になし

#### プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感  
日米の市民社会の違いや協力体制に興味があったのだが、レクチャーはアメリカについて、特にシステムについての解説が多かったので少々期待外れだった。また、レクチャーは日本人のみでの受講で、アメリカの学生と関わるのはグループワーク時のみだった。異文化交流を求めていたので、この点も予想外だった。  
しかし、グループワークで東北復興プランをアメリカ人学生も交えて検討する作業は非常に有意義だった。

② 参加後の予定  
私のチームは上位2チームに選出されたので、チームのアメリカ人たちも含め、皆で8月に行われる東北研修にも参加できることになった。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス  
お金も一切かからずワシントンに滞在できるほか、グループワークを通して新たな友人を得ることができる点が魅力的なプログラムだと思う。

#### その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。